

明中瓦版

発行 小中一貫校 彩和学園
富田林市立明治池中学校
最終号 発行日 令和6年3月22日



一年を締めくくり・・・

校長 西田和弘

令和5年度におきましても、保護者のみなさま、地域の皆様のさまざまな、ご協力、ご支援により無事に終えることができました。彩和学園としても2年目を終えることができましたことも改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

3月13日には第34回卒業証書授与式を終え、卒業生たちは立派に巣立っていきました。とても素敵で感動的な式となりました。同時に存分に明中生らしさを発揮し、その伝統を後輩たちに引き継ぐことができたと感じています。在校生代表として2年生と1年生の一部の子どもが参加しましたが、2年生に感想を聞いたところ「自分たちの卒業式もあんな卒業式にしたい」「自分たちで卒業式を作りたい」など、頼もしい感想を持ってきていました。

また、彩和学園としてはスタートして2年がたちましたが、次年度は3年計画の最終年となります。これまでの取組実践の質を上げることは当然ですが、その取り組みを通して子どもたちがどのように変容してきたのかをしっかりと確かめながら、課題の把握、改善を行い次年度の学園運営を行ってまいります。

先日学校訪問をしてくれた卒業生の話を一部引用させていただき、本日の修了式で子どもたちに「学び」について話をしました。その卒業生は、3年間、部活動と学業を頑張り、特に部活動では全国大会で優勝するという立派な功績を上げています。卒業生曰く、身につく学業とは、「自分の興味や関心を持ちながら、主体的に学習すること、しかたなく勉強したり、やらされる勉強では身につかないと感じた」という話をしてくれました。このことは、まさしく文科省が提示している内容そのものです。おそらくこのことが、文科省の示している内容とは知らなかったと思います。しかし、高校生活3年間で、実感として学びとはどういうものなのかを体感し、これから活かそうとする姿勢に私は感心し驚きました。

子どもたち一人ひとりには、必ず秘められた可能性があります。その可能性を少しでも良い方向に導いたり、発見させたりすることがわれわれの役目だと思っています。そのためにも一人ひとりの子どもと真摯に向き合い、互いに切磋琢磨しながら教育活動を進めていかなければなりません。

令和6年度は、取組の充実、新たな制度の導入など彩和学園にとって大きな節目になるのではないかと考えています。つきましては、保護者の皆様、地域の皆様には、今後とも彩和学園明治池中学校の応援団になっていただきご協力とご支援をお願いしたいと存じます。

一年の結びにお礼と感謝の意を述べさせていただきます。



“You can! 終始一貫 MEIJIKE” を合言葉に!

彩和学園 【めざす子ども像】

「今と未来、社会でいきる自分らしさを」～すすんで「挑戦」 つづける「継続」 つながる「共生」～